



一昭和医科大学歯科病院の理念一

患者本位の医療
先進的医療の推進
医療人の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎
編集責任者 広報委員長 長谷川 篤司
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1

TEL 03-3787-1151 (代表)
いちいちごいち

ホームページ: <https://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

一生自分の歯で過ごすために むし歯は予防と管理が大切です

保存修復科 診療科長・教授 小林 幹宏

むし歯は、かつて「できたら削って詰める」のが当たり前でした。しかし一度削った歯は元に戻らず、治療した歯も詰め物のすき間から新しいむし歯ができることがあります。削って治すだけでは歯を守りきれません。

近年では「むし歯は治すもの」から「予防と管理するもの」へと考え方が変わってきました。予防と管理とは、むし歯の原因やリスクを把握し、その進行を抑えることです。初期のむし歯であれば、再石灰化（溶けかけた歯が自然に回復する作用）を促し、削らずに健康を保てる場合もあります。

むし歯は世界で最も多い慢性疾患の一つで、風邪のように治って終わりではありません。食事内容、歯みがき習慣、唾液の量や質など多くの要因が関わるため、誰もが一生むし歯のリスクを抱えています。

保存修復科では、生活習慣やお口の状態を評価し、科学的根拠に基づいた予防プログラムを提供しています。むし歯予防の基本は毎日のセルフケアですが、実際には十分に磨けていない

ことも少なくありません。そこで歯ブラシの使い方や歯間ブラシ、フロスの選び方を指導し、個々に合った最適なセルフケア方法をご提案しています。さらに磨き残しの確認や専門的なケアを受けることで、むし歯を効率的に防ぐことができます。

これまで治療した歯も、これから守る歯も、一生大切にしていくためには予防と管理を続けることが重要です。歯やお口のことで不安があれば、どうぞお気軽に当科にご相談ください。



図1 ブラークのチェック
赤く見えるところが、歯に残っているブラーク（歯垢）です。



図2 歯科衛生士による口腔衛生指導
むし歯を予防・管理するために大切なステップです。



図3 専門的な歯のクリーニング（PMTC）
毎日の歯みがきで落とせない汚れを取り除きます。



- P1 一生自分の歯で過ごすために
- P2 診療科紹介：保存修復科
- P3 歯科診療トピック：口腔リハビリテーション科
- P4 部署紹介：歯科衛生室、編集後記

記事見出しの色分けをいたしました。

患者さん向け、医療機関向け、お知らせなど

診療科紹介：保存修復科

保存修復科 助教 菅井 琳太郎

「保存修復科」では、う蝕（むし歯）治療や審美治療を中心に診療を行っています。現代におけるむし歯治療の考え方は、患者さんごとにリスクを分析し、予防と管理を徹底することで「むし歯をつくらない」「できたむし歯の進行を抑える」ことに重点を置いています。また、むし歯が進行して治療が必要な場合でも、「コンポジットレジン」という歯を修復する高分子材料を用いることで、可能な限り低侵襲で歯を削り、健康な自分の歯を最大限残すことが可能となっています。（図1）

審美治療では、セラミックによる治療や歯のホワイトニングを行い、口元の美しさの改善を目指します。奥歯の銀の詰め物をセラミックに置き換える治療や、古くなった被せ物のやり直しによる部分的な改善、ホワイトニングによる歯全体の色調改善など、患者さんのご希望に合わせた幅広い治療が可能です。単に見た目を整えるだけでなく、天然歯本来の「機能・形態・色調」を尊重し、よく咬めること、自然で健康的な笑顔を長期的に保つことを目標としています。



図1 コンポジットレジンによる治療

保存修復科で行っている治療の一部を紹介します。

【う蝕（むし歯）予防コース】

保存修復科では、むし歯の予防と管理に特化した「う蝕予防コース」をご用意しています。お口の環境やリスクを分析し、生活習慣のアドバイス、歯磨き指導、歯のクリーニング、フッ素塗布、歯ブラシや歯磨剤（歯磨き粉）の提案などを行います。むし歯を徹底して防ぎたい方、むし歯になりやすい方、治療した歯が多い方におすすめです。

【歯のホワイトニング】

歯のホワイトニングは、加齢や生活習慣で黄ばんだ歯を明るくすることができます。病院で行う「オフィスホワイトニング」と自宅で行う「ホームホワイトニング」があり、ライフスタイルに合わせて選択可能です。当科では、日本歯科審美学会認定ホワイトニングコーディネーター資格を持つ歯科衛生士と歯科医師がチームで対応し、最適な医療ホワイトニングをご提案します。

私たちは患者さん一人ひとりが適した治療法や予防法を提案させていただき、口の健康を守るサポートをしています。むし歯や金属の詰め物、前歯の色や形など、些細なことでも構いませんので、ぜひお気軽にご相談ください。（図2）



図2 保存修復科医局員

歯科診療トピック：口腔リハビリテーション科

口腔リハビリテーション科 診療科長補佐・准教授 伊原 良明

当科では、加齢や病気の後遺症などが原因で食事のむせが頻回になったり、食事を口からとれなくなったりする摂食嚥下障害とうまく話すことができない構音障害を有する患者さんに対して評価を行い、その結果に基づいてリハビリテーションを構築し指導を行っています。

今回は食事を口からとることが難しくなってしまう摂食嚥下障害に対する治療についてご紹介します。リハビリテーションにおいて一番重要なのは、その患者さんが食べられるようになりたいもの（いわゆる目標）を把握することと、患者さんの口腔内および嚥下機能のどこに問題があるのかを診断することです。

目標を把握しておかないとゴールが見えないため、モチベーションを保つことができず途中であきらめさせてしまう可能性があります。また、問題点の把握が不十分であると適切なリハビリテーションを指導できないため、機能改善に時間を要してしまい、患者さんのリハビリテーションに対するモチベーションを保つことができなくなってしまう可能性があります。

そのため、当科ではまず患者さんの目標を聞きます。その後、嚥下機能を簡易的な、さまざまな器具を使用して評価し、必要に応じて詳細な嚥下内視鏡検査や嚥下造影検査を行います。嚥下内視鏡検査と嚥下造影検査は実際に食べる食物の動きを動画でみることができ、口腔内および嚥下機能を患者さんも理解しやすい検査です。

また、さまざまな食事形態および姿勢で撮

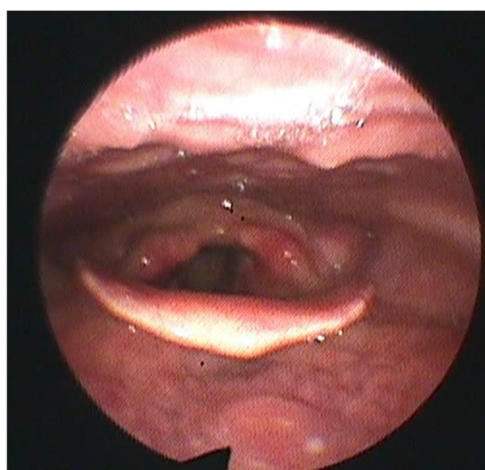
影可能であるため、安全に食事をする方法を見つけるための検査でもあります。これらの検査結果より患者さんの目標に到達できるかどうかを判断し、目標のすり合わせを行い、訓練を進めていきます。

訓練の途中でもどのくらい改善されたかを把握するために、前述の検査を随時行っております。

外来でも訪問でもどちらでも対応可能（訪問の場合は当院より16km圏内のみ）です。「最近、食事中にむせることが増えたな」や「水を使用した歯科治療時にむせることが多くなったな」など症状が出てきましたら、一度、ご相談あるいはご紹介いただければと思います。



嚥下造影検査



嚥下内視鏡検査

部署紹介：歯科衛生室

歯科衛生室 係長 佐藤 香織

歯科衛生室は、現在38名の歯科衛生士が在籍しています。歯科衛生士は国家資格を有し、患者さんのお口の健康をサポートする職種として幅広い分野で患者指導業務に携わっています。昭和医科大学の建学の精神である「至誠一貫」を礎に、医療に関する知識・技術を持ち、患者さんの立場に立った上での医療の提供と、医療を通じ社会に貢献していくことを目指しています。

◎ 歯科衛生士が関わっている主な専門業務

- ・むし歯や歯周病予防のための口腔衛生指導
- ・歯石除去や機械的歯面清掃
- ・手術前後の口腔清掃や口腔ケア
- ・お口の健康維持、増進を目的とした定期的なメンテナンス（クリーニングや唾液の測定、歯周病リスク判定などの検査）
- ・ホワイトニング
- ・口腔筋機能療法（MFT）
- ・摂食機能療法
- ・訪問歯科衛生指導
- ・口腔機能低下症の機能検査
- ・治験業務 など

その他に、診療補助業務、薬品や材料の管理業務、学生教育、多職種と協働しながら医

療安全や院内感染予防対策なども行っています。

歯科衛生士は、患者さんの不安や悩みを取り除くために患者さんに寄り添いながら、チーム医療の一員として真心のこもった医療を提供しております。患者さんが、ご家族や大切な方々といつまでも笑顔で楽しく「会話」や「食事」ができるような支援を継続していきたいと思います。

2027年4月に昭和医科大学保健医療学部医療技術学科歯科衛生学専攻が新たに開設される予定です。随時、オープンキャンパスや病院見学ツアーなども開催しています。

詳細は昭和医科大学保健医療学部HPをご覧ください。



歯科衛生士による定期的なメンテナンスの様子



歯科衛生室スタッフ

暑い夏もようやく過ぎ、過ごしやすい秋がやってまいりました。スポーツの秋、読書の秋、食欲の秋と皆様それぞれの楽しみ方があることと思います。

同時に急激な気温の変化の影響により体調を崩しやすくなる季節でもあります。何をするにも、健康第一で過ごしたいものですね。

(M.H)

